



ウイルスに負けじと黄砂押し寄せる

堀川明子

コロナウイルスが世にはばかるのを見て、黄砂が嫉妬している図だね。新参者の菌に対して、俺たち黄砂には何万年の伝統と歴史があるんだぞと。



警察犬今日は目溢し猫の恋

高田敏男

この句で警察犬が気まぐれであることが良く分かる。野外での不純な交遊として普段は厳しく取り締まるが自身も同類と気付いたのか。



その顔は食へる顔なり牛蛙

小林英昭

牛蛙には食える顔と食えぬ顔の種があり、牛蛙の顔は不愉快であり食えぬ顔だが食用になるから食える顔だと小林君はなに食わぬ顔で詠む。



赤ちゃんの泣き真似をして恋の猫

山田真佐子

恋猫の声は赤ちゃんの泣き声に酷似。どちらが本家なのかの判定は難しいが、恋猫が季語になってるから真似をしているのは赤ちゃんかもね。



けふはけふきのふはきのふ春の雲

百千草

今日は今日、昨日は昨日の春の雲と、日替わりの自在さを詠んでいる。ひらがなで書いているから雲のやわらかさも出ているね。



二月尽外科医の如く手を洗ひ

原田 暉

確かに外科医は丹念に手を洗う。肘までが手であるかに洗うね。年明けから新型コロナウイルスが広がっているが、ワクチンがないから自己防衛しかない。